



D.I. 質問箱

Q62

ヘリコバクター・ピロリ（H・P）検査はいろいろありますが、どの項目を選択したらよいでしょうか。併せて、結果値や治療後の確認方法についても教えてください。（今回は主に検査項目の特徴について回答いたします。結果値や治療後の確認方法については、次号お届けいたします。）

A62

●抗 H・P IgG 抗体（感染の既往、スクリーニング）

陰性の場合、H・P 感染陰性と診断ができます。（ただし感染初期や免疫不全などを除く）

除菌判定においては、抗体価の有意な低下が 1 年以上を要するため適しません。

●便中 H・P 抗原（現在の感染）

除菌前の感染診断においては、感度、特異度ともに高いです。

除菌判定においても感度は高いですが、偽陰性に注意が必要です。

●尿素呼気試験ユービット、ピロニック（現在の感染、除菌判定）

除菌前、除菌判定の診断において、感度、特異度ともに高いです。

治療後、陰性の場合、除菌成功の確率は高いです。

その他「H・P 培養同定」「H・P 判定（病理学的検査）」等もありますが、ここでは割愛させていただきます。

【レセプト審査関連】除菌前の感染診断では、「胃潰瘍または十二指腸潰瘍」の確定病名及び「ヘリコバクター・ピロリ感染の疑い」という病名が必要です。

お問合せ：学術データーフォメーション（D.I.）課まで

0120-14-8734（フリーダイヤル） / 082-247-4325（ダイヤルイン）



昨年のことです。天候もよく実りの秋を迎えるため草刈に励んでいた 8 月中旬のことでした。田の周りの草を刈りながら今年はよく出来ているので秋が楽しみだと稲の方に目をやった時です。そこにあるはずの稲が見えません！ よく見ると、稲は倒され、無残な姿に…。全身の力が抜け呆然としました。そう、猪が田の中で“運動会”をやったようです。被害はわが家だけではなく、近所の方と一緒に猪との知恵比べ、そして稲刈りと大変な日々を過ごしました。今年は 5 軒で電気柵を共同購入し、7 月の末に設置する予定です。これで被害が防げれば良いのですがどうなるのでしょうか。

正木 篤志（業務システム課課長補佐）

広報委員

松本 道雄 / 藤本 誠 / 伊丸 直樹 / 中村 賢作 / 渡川 美弥子 / 初岡 博 / 熊川 良則 / 高磨 潤

